

CFNJ NEWS

クライスト・フォー・ザ・ネーションズ・ジャパン聖書学院

2025年1月号 NO.194

2025

Happy New Year!

2025年カレンダー付き

「そこには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。」

(コロサイ3章11節)



学院ミュージカル 「ダビデ」

2025



I wish you a Happy New Year!

年賀

親愛なる友人の皆様！

「キリストがすべて！」

新たな年を迎え、日本におられる皆様に神様からのお祝いの言葉を贈りたいと思います。

新たな年を迎えて、今、私は92歳となりました。物理的には日本の皆さんとは遠く離れて暮らしておりますが、心は皆さんと同じ地球という惑星に住み、私たちをお造りになった同じ神様を愛して、同じように見上げています！

CFNJ 聖書学院創立者 チャールズ・J・グリコ



■ 私達の神様の願いは？

「すべての人が救われて、真理を認識すること」(1テモテ2章4節) です！

■ この神様の目的を達成するために！

「神が私たちに永遠の命を与えてくださったということです。そして、この命は御子の内にあります。御子を持つ人は命を持っており、神の子を持たない人は命を持っていません。」(Iヨハネ5章11節・12節)

■ 私たちがこの地上にいる間、最も大切なことは？

イエスを受け入れ、イエスの中で霊的に成長することです！

私たち一人ひとりがこの地球上で主の目的を達成する時間が限られていることを示すために絵を描きましたが、この地球は、私たちが何者であり、何を信じているかを、神と世界に示す舞台のようなものです。

私たちが初めてキリストのもとに来て、キリストを信じたとき、キリストは私たちを変え「新しく造られた者」(IIコリント5章17節)にされ、私たちは「キリストと一つの霊」(Iコリント6章17節)となりました。私たちの内なる人の中におられる御霊によって、主は私たちが「キリストの愛を知り、神の満ち満ちたすべてのものに満たされる」(エペソ3章16節～18節)ようにして下さるのです。また、イエスは私たち一人一人に「行って、すべての国の人々を弟子にしなさい」(マタイ28章19節)とされました。

■ イエスの福音を、私たちの言葉、行動、生活によって他の人々に伝えることは、私たちの特権であり責任です。そうする時に、私たちの人生は「すべての人に知られ読まれる」(IIコリント3章2節)手紙のようになります。

■ この地上での短い人生において、キリストがすべてであり、私たちはこの神の言葉に従うべきです。

「そこには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。(コロサイ3章11節)

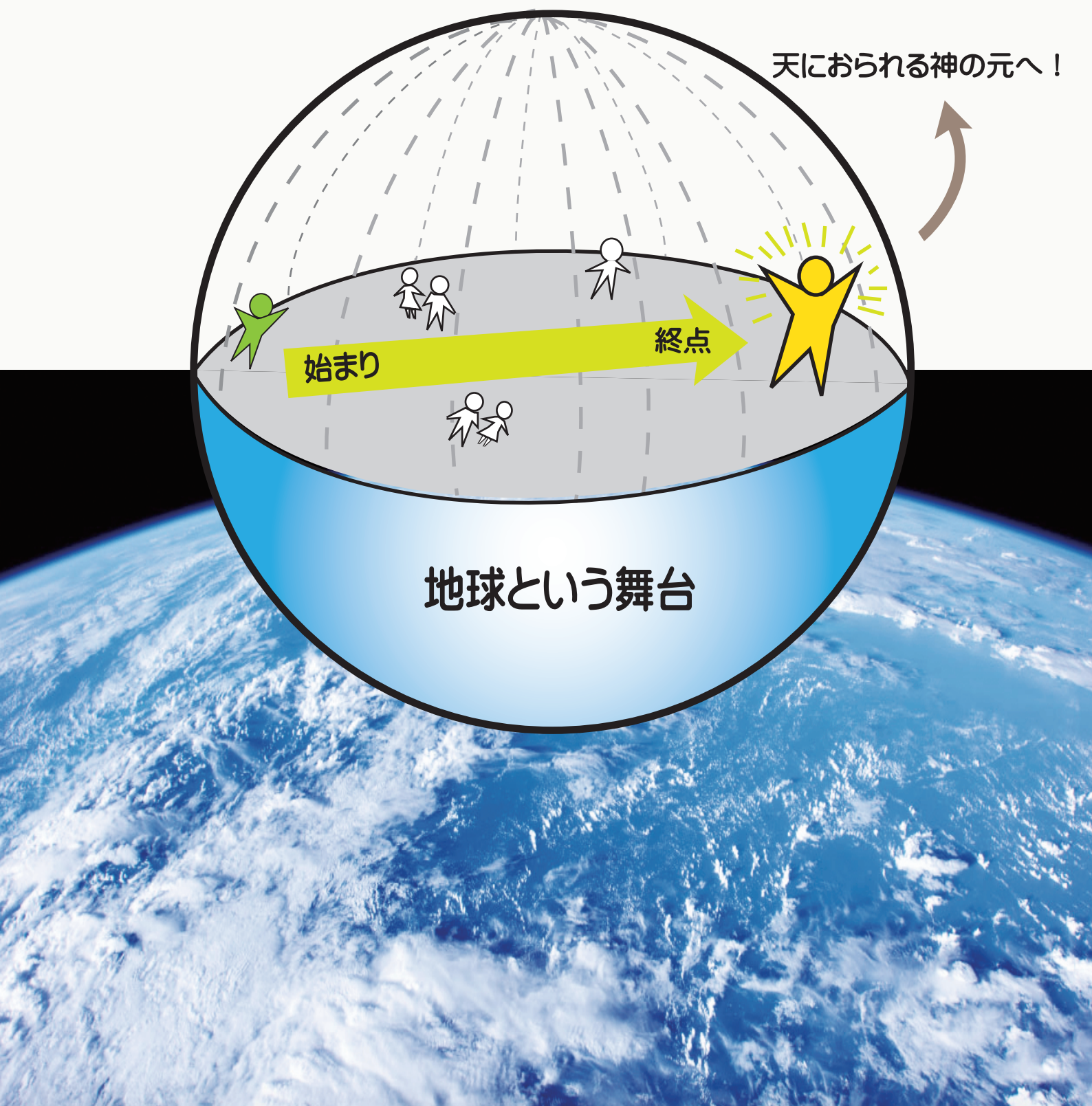
「たゆまず祈りなさい。感謝のうちに、目を覚まして祈りなさい。」(コロサイ4章2節)

■それでは、もう一度絵を見てください。

父なる神に抱かれ、イエスの命に満たされ、聖霊に導かれて、私たちの旅を一緒に祝いましょう！これが現実であり、私たちが日々の生活を喜びにあふれて祝う理由です。

皆さんと共に祈りながら、皆さん一人一人に新たな年の祝福をお祈りします。

キリストの兄弟、チャールズ・グリコ



「学友よ! 共に立ち上がろう!」

<黙示録10章~12章から見る終末時代の備え>

兄弟たちは、小羊の血と、
自分たちのあかしのことばのゆえに
彼に打ち勝った。
彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかつ
(黙示録12章11節)

札幌新生キリスト教会 牧師・学院講師
田中博師



主にあって愛する皆さん! 新年明けましておめでとうございます!

現代は超激動の時代です! そして教会にも驚き感うべき時代の波が押し寄せて来ています! 私達はこのような時代にあって、いったいどのように生き、又、信仰の戦いを共に闘い抜いて行くことが出来るのでしょうか? 過日、インドネシアのATI 神学校(インドネシア西カリマンタンにある神学校)の元校長のバシム師が『我が国はリバイバルを経験し、都市部にはメガチャーチと呼ばれる教会を持ち、宣教師を派遣する力はあるのに、教会の成長にフォーカスが当てられ、今まで海外に宣教師をほとんど派遣して来なかった。』と現状を嘆いておられました。私達はこの終末と言われる時代において、様々な事柄を見抜き見分けていかなければなりません。

「偽善者たち。あなたがたは地や空の現象を見分けることを知りながら、どうして今のこの時代を見分けることができないのですか。」(ルカ12章56節)

急激な時代の進歩や科学の発達は、下手をするとあの黙示録12章に書かれている、「赤い竜」(悪魔)となりうるのです! 「また、別のしるしが天に現れた。見よ。大きな赤い竜である。七つの頭と十本の角とを持ち、その頭には七つの冠をかぶっていた。その尾は、天の星の三分の一を引

き寄せると、それらを地上に投げた。また、竜は子を産もうとしている女の前に立っていた。彼女が子を産んだとき、その子を食い尽くすためであった。」(黙示録12章3節~4節)

この時代を見抜く上で、私達に、「深い霊性」と「洞察力」を与えてくれるものは聖書の結論の書である「黙示録」でありましょう。この「黙示録10章、11章」を通して、これから私達が何を目指し、又、どのような歩み方をしていけば良いのかを見て行きたいと思います。

1. 世界的視野を持つ

「また私は、もうひとりの強い御使いが、雲に包まれて、天から降りて来るのを見た。その頭上には虹があって、その顔は太陽のようであり、その足は火の柱のようであった。その手には開かれた小さな巻き物を持ち、右足は海の上に、左足は地の上に置き、獅子がほえるときのように大声で叫んだ。彼が叫んだとき、七つの雷がおのの声を出した。七つの雷が語ったとき、私は書き留めようとした。すると、天から声があって、『七つの雷が言ったことは封じて、書きしるすな』と言うのを聞いた。』」黙示録10章1節~4節

先ず、皆さんに、世界的視野を持つ学友であれと言いたいと思います! その為には、この御言葉

(次ページに続く)

の中に素晴らしい理想像があると思います。この個所には御使いの姿が書かれています。それは、

「全身栄光に包まれ、神の契約の印である虹を頭に頂いて、太陽のように顔が輝き、又、火柱のような足をした天使の姿」、そして、その御使いは「重大な使命を託され、その手には神の奥義である聖書を持ち、足は海と陸にまたがって踏みおろされ、獅子が吼えるような大声で叫ぶ！」

この姿こそは私達の勇姿！神とキリストにより使命を頂き、その言葉を全世界へと伝えんとする姿です！全世界へ向けてキリストの大宣教に力を使うこと、それは伝道者のみならず、社会に於いて医者、教師、事業家、又、エンジニアとして、どんな職業であっても、その置かれた所でキリストの血潮の福音を伝え、又、キリストの歩まれたみ足跡に従い歩む事、そのような者であって欲しいと願っております。

「罪を犯したために打ちたたかれて、それを耐え忍んだからといって、何の誉れになるでしょう。けれども、善を行っていて苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです。あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。」(1ペテロ2章20節・21節)

2. 時代への認識を持つ

「それから、私の見た海と地との上に立つ御使いは、右手を天に上げて、永遠に生き、天とその中にあるもの、地とその中にあるもの、海とその中にあるものを創造された方をさして、誓った。『もはや時が延ばされることはない。第七の御使いが吹き鳴らそうとしているラッパの音が響くその日には、神の奥義は、神がご自身のしもべである預言者たちに告げられたとおりに成就する。』」(黙示録10章5節～7節)

皆さん！私達は今の時代(終末)に生かされた者として、この時代をどのように認識するかという事はとても大切な事です。イソップ童話の中には「蟻ときりぎりす」の話があります。この話は厳しい冬が来る前に備えることを私達に教えています。正にこれから厳しい冬である「主の日」「その日」がやってきます！「その日」の為に、私達は備え務める必要があります。それは私達の使命です。その為には私達の国や時代に対して正しい認識を持つ必要があります。エゼキエル書にはこう書かれています。

「この方は私に仰せられた。『人の子よ。さあ、壁に穴をあけて通り抜けよ。』私が壁に穴をあけ

て通り抜けると、一つの入口があった。この方は私に仰せられた。『入って行き、彼らがそこでしている悪い忌みきらうべきことを見よ。』」(エゼキエル書8章8節・9節)

預言者エゼキエルは、神から祖国イスラエルの家の忌み嫌うべき悪事を見せられました。同じく日本も過去、神に背信し、教会の無力の故に世界に武力を行使し、特に東南アジア諸国には甚大な流血をもたらしました。その結果、祖国は亡ぼされました。私達はもっと世界的な視野から日本の姿を知り、世界に対する贖罪的負債がある事を認め、悔い改めの徹底と、教会復興に立ち上がらなければなりません！ですからリバイバルが必要です！リバイバルは世界宣教の母胎ですから！黙示録12章・13章を見ますと、悪魔(竜)に権力を与えられた獣が立ち上がり、第1に獣(国家権力の如き)その追随者である、第2の獣(偽預言者・教師・ご用学者等々)が地に住む人々を惑わし迫害します。種々の時代の受け取り方や福音理解がある中で、私達は自分が置かれている「今」の時というものを明確に認識しなければなりません。そうしなければ「主の日」に問われる事になります。ですから勝利を得る者とは、その時代を正しく認識するものです。

3. 御言葉と血の力を確実に体験する

「それから、前に私が天から聞いた声が、また私に話しかけて言った。『さあ行って、海と地の上に立っている御使いの手にある、開かれた巻き物を受け取りなさい。』それで、私は御使いのところに行き、『その小さな巻き物を下さい』と言った。すると、彼は言った。『それを取って食べなさい。それはあなたの腹には苦いが、あなたの口には蜜のように甘い。』そこで、私は御使いの手からその小さな巻き物を取って食べた。すると、それは口には蜜のように甘かった。それを食べてしまうと、私の腹は苦くなった。そのとき、彼らは私に言った。『あなたは、もう一度、もろもろの民族、国民、国語、王たちについて預言しなければならない。』」(黙示録10章8節～11節)

神は、「その巻物をとって食べよ。」(黙示録10章9節)と仰いました。ここに私達への教訓とどのように歩むべきかの責任と自覚があります。それは「安価な福音」(ディートリヒ・ボンヘッファーの言葉「1906年2月4日～1945年」ドイツの神学者。)で動かされるのではなく、体験的に自ら時代の責任を感じ、更に、単に信じるのみならず行動をもって、自分たちの負うべき主



2025

<令和7年>

CFNJ CALENDAR

1 JAN

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

●14日/3学期開始

2 FEB

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3 MAR

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

●7日/卒業式

4 APR

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

●14日/入学式

5 MAY

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6 JUN

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

7 JUL

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

●4日/1学期終了

8 AUG

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

9 SEP

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

●1日/2学期開始

10 OCT

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

11 NOV

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

●28日/2学期終了

12 DEC

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

の十字架をしっかりと背負い。そして隣人の救霊の為に働く事。このような神の言葉とイエスキリストの血の力を体験的に受け取り、神にお従いする事です。

4. 測られること

「それから、私に杖のような測りざおが与えられた。すると、こう言う者があった。『立って、神の聖所と祭壇と、また、そこで礼拝している人を測れ。聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ、そのままに差し置きなさい。測ってはいけない。彼らは聖なる都を四十二か月の間踏みこむ。』」(黙示録11章1節・2節)

終末時代には崩壊する教会と、建て上げられる聖所とその民が測られるとあります。「測る」とは、「保護」と「破壊」を意味する「主の日」の「量り」が行使されるとの預言です。

教会とその民が俗化し、微温化(生ぬるくなる)し、サタンの吐き出す水に押し流される危機の時代を迎えます。その時に、「**キリストの血によって勝利する!**」とはどういう内容を伴うものでしょうか?「兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。」(黙示録12章11節)

皆さん!「耳のあるものは聞け!」(黙示録13章9節)と黙示録は叫んでいます!これこそキリストの花嫁(高価な福音)に叶う「エクレシヤの建設」です!

5. カリスマ伝道

『それから、わたしがわたしのふたりの証人に許すと、彼らは荒布を着て千二百六十日の間預言する。』彼らは全地の主の御前にある二本のオリーブの木、また二つの燭台である。彼らに害を加えようとする者があれば、火が彼らの口から出て、敵を滅ぼし尽くす。彼らに害を加えようとする者があれば、必ずこのように殺される。この人たちは、預言をしている期間は雨が降らないように天を閉じる力を持っており、また、水を血に変え、そのうえ、思うままに、何度でも、あらゆる災害をもって地を打つ力を持っている。」(黙示録11章3節~6節)もはや今の青年達は、このレベルの伝道でなければ通用叶わずです!

6. 苦難・殉教を覚悟すべし!

「そして彼らがあかしを終えりと、底知れぬ所

から上って来る獣が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺す。彼らの死体は、霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさらされる。彼らの主もその都で十字架につけられたのである。もろもろの民族、部族、国語、国民に属する人々が、三日半の間、彼らの死体をながめていて、その死体を墓に納めることを許さない。また地に住む人々は、彼らのことで喜び祝って、互いに贈り物を贈り合う。それは、このふたりの預言者が、地に住む人々を苦しめたからである。」(黙示録11章7節~10節)

「あなたがたは、キリストのために、キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜ったのです。」ピリピ1章29節

1985年、学院の設立当時、チャールズ&故ダイアン・グリコご夫妻は、様々な困難の中、祈りによって学院を始められました。創立者の幻と信仰を思い起こしましょう!そして、全世界に出て行き福音を!現在の学院長ご夫妻のご苦勞も憶えて祈りましょう!ハレルヤ!

7. 主よ!産み出す祈りの力を下さい!

「五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。また、炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりの上にとどまった。すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話した。」使徒12章1節~5節

今から65年前の1960年、「熊本バプテスト教会(現:熊本愛泉教会)」に「日高範嘉(のりよし)」という牧師が就任しました。この教会の歴史は古く、「日本バプテスト連盟」で5番目に数えられる伝統的な教会でした。当時、宣教師夫妻がおり、地元の熊本大学から多くの学生も来たり、日曜日の礼拝は約180人位の人々が集っていました。しかし祈祷会となると、20名弱しか集わず、広い礼拝堂もポツリポツリとまばらな状態でした。その祈りの声もか細く、信徒に「証し」をお願いすると、それを理由に教会に来なくなるという状態でした。霊的な状態は、祈れないし、祈らない教会の体質。又、今の状態に特別な問題意識もない状態でした。日高牧師の思いは、「人はたくさん集まり、喜んではいるが、神ご自身は、それを喜んでおられるのだろうか?」という思いでした。それ故に牧師は、阿蘇山に登り、呻き、祈り、悔い改めを迫られたのでした。

リバイバルの火が下る！

そんなある日、牧師は人々に「特別伝道集会」の為の祈祷会に集まって祈るように呼びかけました。そして、霊的復興を目指して70日の祈りを始める事になりました。先ず、午前10時からの祈り会に集められたのは3人の婦人のみでした。しかし少人数ではありましたが、会を重ねるうちに、涙を流し、次第に泣きながら、叫ぶような祈りに導かれました。しかしそれを知った宣教師が、「あれはおかしい！感情的すぎる！」又、「このような祈り方は自分たちの国では教養のない人がする祈りだ！」と、意見が違って来たのでした。そしてその結果、宣教師を含む、約3分の1の人々が教会を去る事になりました。牧師もその事でも心を通り、苦しい所を通らされましたが、その後の夏、阿蘇山の南阿蘇にある垂玉（たるたま）において聖会が開かれ、その聖会に約30名程の人たちが集い、熱心に祈りが捧げられる中、聖霊が降り、そこにいた人たちの上に、喜びと平安が心を満たしたのでした。続いてその年の秋に、同じ垂玉（たるたま）で2回目の聖会が開かれ、その時は約60名程が集まり、「使徒行伝2章1節～4節」に記されているような、「ペンテコステの出来事」が起こりました！

リバイバルこそ神の願い！

その事があって後、それから若者たちをはじめ多くの献身者が起こされたのでした。（その中の一人が私です。）その結果、教会は、喜びと活気に溢れ、信徒同士の交わりも深まり、又、様々な奉仕に、とても意欲的に取り組むようにならされていきました。更に、霊は燃やされて、よく祈り、喜んで証しをし、外に向かって伝道に出かけるようになりました。やがて、（私を含んで）多くの若者が神学校へと導かれました。その結果、後に熊本を中心に、沖縄から北海道まで、何と！10の教会・伝道所が誕生しました！その1つが私たち「札幌新生キリスト教会の群」です。そして更に、「全世界に出て行き」の主の証し人として伝道するため宣教師を志す者たちが多く起こされました。「東南アジア」、「フィリピン」、「韓国」、「パプアニューギニア」、「中国」、「多くの共産圏」と、日本から宣教師を送り出し、「黎明（れいめい）宣教会」が立ちあげられたのでした。その目的は、「神殿の復興」と「世界宣教」を使命とし、「聖霊による刷新」によって、「新生」した我らを「新生の民」と呼ぶ事となりました。このようにして私達の教会の信仰復興は、「聖霊の降臨」によ

て起こりました！「使徒2章」を見ても、聖霊が降ってから教会が誕生したように、今日においても同じように、「聖霊による刷新」、「ペンテコステのリバイバル」は、教会を生かす所の聖霊のお働きです。「リバイバル」こそ神様の願いです。そこで「信仰が刷新」され、「生かされ」るのです。そして古いものが一新され、それが新しくされ、魂の救いの御業が次々と起こっていくのです。

リバイバルされると「祈りの力」が刷新されて、そこには、非常な平安と喜びが満たされていきます。又、例え、親や家族から義絶（ぎぞく～関係を絶つこと）されても、ひたすら祈り、諦めないならついには、両親も姉も次々と信仰に入り、救われて行くようになるのです！私達は「祈りの民」です！祈りの火を絶やしてはなりません！祈りの道は聖霊に導かれるものであって、自分自身の血気によるものではありません。自分の頑張りや力でどんなに祈ろうとしたとしても、結果は、むしろ失望したり、自分が傷つくだけです。けれども、御霊に導かれるなら、恵みに満たされ、神様との交わりが、非常な喜びとなるのです。

65年前、「日本バプテスト連盟」は、アメリカからの多額の援助によって支えられてきました。しかし私達は、牧師給や教会建築、世界伝道も、アメリカからの支援によって成すのではなく、自立、自活の道を選び、願って、ひたすら祈り、様々な献金、必要の全てを1つ1つ神に求めながら、正に、お腹を痛めて子を産むように神に祈り求めて歩んできました。このことはお金が無いから出来ないのではなく、祈りがあるかどうか？であります。「連盟」も、数百の教会がありながら宣教師は2名しかいなかったのですが、「黎明宣教会」は、11の「新生の民の教会」で、4名の宣教師を送り出す恵みにあずかっています。

第2のリバイバル！

この「熊本バプテスト教会（現：熊本愛泉教会）」が経験した、「第一のリバイバル」の日、あれから65年、今、私たちは「第二のリバイバル」を求め、叫んでいます！その祈りの課題は2つの事です！1つは、「シオンの回復と世界宣教」です。この召しと使命を継承する為に次世代の為の人材を送り出すことが必要です。そして、2つ目は、「教会のリバイバル」です！これをもたらし維持する為の、強力な「祈りの祭壇」を築き上げること。その為に毎朝の5時の祈りを守る事。そして、「宣教師へのサポート」ができるようにという事です。

ザビエルの叫び！

思えば16世紀半ば、ルターの宗教改革に対抗し、カトリック教会の改革を決心した、イグナチウス・ロヨラ（1491年～1556年）の指導のもと、1534年フランシスコ・ザビエル（1506年～1552年）と同志7名が、パリのモンマルトルで「イエズス会」を結成し、厳格な訓練や準拠的精神を持ってヨーロッパからアジアにかけて「宣教活動」の狼煙を上げられました。中でもザビエルは、スペインの宣教師となって、インドのゴアを中心にマラッカ諸島に宣教し、1549年には鹿児島に到着しました。日本滞在は約2年間、おもに九州、山口、京都で宣教し、1551年に日本を去り、中国で熱病の為、死去しました。その間の消息が（「聖フランシスコ・ザビエル書簡抄 上下巻」岩波書店から発刊されている。）ザビエルが宣教地より、故国、スペインの教会に送った書簡集を見ると、500年間という長い年月を経ても、「今もなお」ひしひしと甦ってくるリバイバルがもたらす宣教のスピリットが伝わってきます。ザビエルは本国の教会に向かってこう叫びました。『なにとぞ、説教のできる神父を、神の愛の為に、是非、送ってくださるようお願いしたい。但し、ここに来る人は、説教家にしても、非説教家にしても、高德の人で、充分、



試練を経た者であることが、実に重要である。何となれば、この地方には、諸悪とその機会がすこぶる多いからである。また、ここに来る人は、学識が深くなくとも、その生活が模範的な人でなければならぬ。ここの（日本）人々は、学識を無視して、生活を重要視するからだ。何卒、神が慈愛の深い摂理を持って、このぶどう畑を耕す働き手を、遣わし下さらんことを願い賜る。何となれば、よく耕されなかったなら、苦いぶどうが出来るばかりだからである」と。

ああ！私共は泣き、また叫ぶ！愛なる日本のリバイバルを！この国に！私達学院に！ペンテコステの火を下してください！ハレルヤ！

圧巻のミュージカル！

「ダビデ」の上演！

去る11月30日、学院では一足早いクリスマス会を開催し、大作ミュージカル「ダビデ」を上演しました。当日会場には、100名を超える人々が集い、このミュージカルを共に観賞し、大きな感動と祝福に包まれました。今回は、学院の卒業生でスタッフの岡田雄基兄弟が、このドラマ製作のために尽力し、はじめから終わりまで多くの時間を割いて準備し、指導してくれたおかげで、過去最高の作品となり、多くの人々から賞賛される結果となりました。約3カ月間をかけて一致協力して成し遂げた学生やスタッフ一同は、大きな喜びに満たされ、すべてを導き、助けてくださった主に感謝と賛美、栄光をお捧げしました。尚、このドラマはご好評につき、3月7日（金）卒業式の午後に再演が予定されています。今回見逃された方は、この機会を逃さずご覧ください、お招きいたします。



CFNJ 講義・ ゲストスピーカー

●ゲストスピーカーの講義は、
どなたでも聴講できます。聴
講は無料です。(席上献金あり。
一部授業は有料)又、各コー
スの授業も聴講可能です。(有
料)詳しくは学院事務局迄お
問い合わせください。

**無料体験入学
実施中!**

平常授業のある3日間(3泊4日)

2024年度 3学期

授業カリキュラム スケジュール

2025年1月14日(火)~3月7日(金)迄

●3月7日(金)は卒業式が行われます。

2025年
1月



米村 英二 師

■熊本県、大津キリスト教会牧師・学院顧問

1/20~24
1・2時間目

CD販売・刊行物



「神の指がふれた時」 「神のみことばのいやしの力」
定価/1枚(CD) 定価/1枚(CD)
(送料別) **700円** (送料別) **1,000円** (送料別)

**CFNJ小冊子
無料プレゼント!**



●お申し込みは/学院事務局まで

1・2年コース (必修科目)

(敬称略)

	月	火	水	木	金
1 AM9:15~10:10	御国の福音 金聖圭	ローマ書Ⅱ 長沢克己	ディスカッション クラス 鍛冶川利文	山上の説教Ⅱ 鍛冶川 利文	
2 AM10:30~11:25			賛美礼拝の 世界へⅡ 奥山直毅	異端と現代 松原 望	
3 AM11:35~12:30	新約聖書 概論Ⅲ 金聖圭	賛美礼拝の 世界へⅡ 奥山直毅	聖書的 伝道論 坂本 清憲	詩篇Ⅲ 田中 博	宣教への 導き 伊藤仁

アルプスコース (必修科目)

1 AM9:15~10:10	リーダーシップの21の原則 鍛冶川利文	ディスカッション クラス 鍛冶川利文	教会教育 益田良一	セリ ン グ Ⅲ 小栗昭夫	牧会 カウ ン 松原 望
2 AM10:30~11:25	祈りⅡ 田中博	実践 と伝道 松本浩志		霊的戦い 岡田好弘	聖書積義Ⅲ 松原 望
3 AM11:35~12:30					

選択科目

午後 PM13:30~15:30	ヘブル語クラス 金聖圭 (一年コース)		タンバリン クラス上級 伊藤 雄基 ピアノクラス 伊藤 雄基	実習 (必修)	ドラマ演劇 クラス 鍛冶川 紀子
---------------------	---------------------------	--	--	------------	------------------------

随時願書受付中!

cfnj.com

新入生募集中!

2025年4月入学、
各学期からの入学可。

- アルプスコース (牧師・リーダー養成)
- 1・2年本科コース (1学期だけの短期で学ぶ事も可能です)

無料体験入学
実施中!

平常授業のある3日間 (3泊4日)

※詳しくは事務局まで。



■SNSでCFNJの最新情報を

- Facebook : @CFNJBS
- Instagram : CFNJ 聖書学院

感謝のご報告と祈りの課題

主の御名を賛美します。昨年一年間も温かいご支援とお祈りをありがとうございました。主は真実で良いお方、主の良くしてくださったことを何一つ忘れずに、今年も主に感謝と賛美をお捧げしながら、前進してまいります。新しい年もどうぞよろしくお願い致します。ニュースレターをご覧いただいている皆様にとって、新しい年が、主の命と祝福に満ちたものとなりますよう、心からお祈りいたします。

<感謝のレポート>

長い間、お祈りに覚えてくださった除雪機、パワフルなホイールローダーが全額、心ある方々の尊い献金によって購入することが出来、早速、この冬の除雪に大活躍しています。主に除雪の作業に当たっている舎監の後藤さんは、車内が温かくて快適で、除雪作業が楽しくなり、今までのように億劫じゃなくなったと喜んでおります。捧げて下さった方々に、改めて心から感謝申し上げます。



<祈りの課題>

年内に学院に体験入学された方々がたくさんおられます。それらの方々が入学の導きと確信が与えられ、一人でも多くの学生が新年度に備えられますように、ぜひともお祈りくださるようお願いいたします。



CHRIST
FOR THE NATIONS
JAPAN

宗教法人 アジアキリスト福音宣教会・クライスト・フォー・ザ・ネーションズ日本校

CFNJ 聖書学院

〒061-3216 石狩市花川北6条5丁目157
(0133)74-1341・1342 FAX 74-1343

- HP: www.cfnj.com 郵便振替: 02780-4-4688
- e-mail: office@cfnj.com 学院長/鍛冶川利文

